



落ち葉堆肥の作り方



公園などでは、毎年秋の時期になるとたくさんの落ち葉が発生します。落ち葉は通常、ごみとして焼却処分されていますが、落ち葉を使って堆肥を作ることができます。季節にもよりますが、作り始めてから1年程度で堆肥として使用できるようになります。

【用意するもの】

- ・落ち葉
- ・落ち葉を入れる囲い（木枠、竹枠、ネットなど）
※公園での囲いの設置については、事前に宮前区道路公園センターにご相談ください。
（参考）竹を使った囲いの作り方は、p5 参照
- ・米ぬか（米ぬかを入れることで微生物が増え落ち葉の分解が早まります）
- ・落ち葉をかき混ぜる用のスコップなど

1 落ち葉を集める

材料となる落ち葉を集めます。

★堆肥づくりに向いている落ち葉⇒ケヤキやコナラ、クヌギなど。

★堆肥づくりに不向きな落ち葉⇒イチョウやクスノキ、スギなど。

※イベントとあわせて落ち葉を集めると、楽しく効果的に落ち葉をあつめることができます！

→（参考）p4 落ち葉を使って遊ぶイベント「落ち葉であそぼう 学ぼう！」を開催しました。

2 落ち葉を積み重ねる

用意した囲いに落ち葉を入れていきます。

- ① 落ち葉を入れる。（3～4 cm）
- ② 薄く米ぬかを撒く
- ③ 囲いの中の落ち葉を踏んで細かくする
- ④ 湿る程度に水をかける。

※①～④を繰り返します。

※囲いは、底があいている（土に接している）方が堆肥化に効果的です。

また、可能な限り枝や石を取り除いておくと、混ざりもののない堆肥ができあがります。

落ち葉などを
堆肥にすることで、
ごみの削減につなが
り土壌改良材等の経
費も削減されます！



3 月に1回程度かきまぜながら、様子を見る（半年～1年程度）

月に1回ほど、かき混ぜて空気を入れることで発酵が進みます。

その際、米ぬかを薄く撒き、乾燥していたら水もかけます。

雑草や植物の残渣も入れるとより効果的です。

4 葉っぱの原型がほぼなくなり、黒い土のようになったら完成です！

堆肥づくりの経過

① 落ち葉堆肥作りスタート（令和5年11月25日）

落ち葉を入れる→米ぬかを入れる→踏む→水をかける を繰り返します。



囲いに入れ終わったら作業終了です。以後、月に1回程度、米ぬかを撒きながらかき混ぜます。

② 1か月経過（令和5年12月26日）

まだまだ葉っぱの形が残っていますが、下の方は湿っており、発酵が進んで白カビが発生しています。



③ 3か月経過（令和6年3月4日）

白カビが多く発生していますが、冬の期間は温度が低いこともあってか、大きく変化している様子はまだ見られません。



④ 6 か月経過（令和 6 年 5 月 23 日）

分解されて小さくなった葉っぱも増えてきました。また、かき混ぜると下の方にはミミズや虫もたくさんいました。



⑤ 8 か月経過（令和 6 年 8 月 2 日）

夏の暑さと湿度で発酵が進み、葉っぱの形がほとんどなくなってきました。完成が近いです。



⑥ 10 か月経過（令和 6 年 10 月 5 日）

完成しました。作った堆肥は花植え等で活用します！



(参考)落ち葉を使って遊ぶイベント 「落ち葉であそぼう 学ぼう!」を開催しました。

令和5年11月に宮崎第四公園で「落ち葉であそぼう 学ぼう」というイベントを開催し、周辺にお住いの親子など、約90名の方にご参加いただき、遊びに使った落ち葉で堆肥づくりにチャレンジしました。



① みんなで落ち葉拾い



みんなで楽しく落ち葉拾い



集めた落ち葉をプールに投入



たくさんの落ち葉が集まりました!

② 落ち葉プール



変わる代わるプールに入って遊びました! (←写真のプール(2個)と空気を入れるエアポンプについては、無料でレンタルいたしますので、宮前区役所企画課(TEL:044-856-3136)まで御連絡ください。)

③ 落ち葉堆肥づくりにチャレンジ



落ち葉プールに使った落ち葉を堆肥づくりの囲いに投入



米ぬかと水を入れながら踏みました。

イベント参加者のみなさんで落ち葉を集めたことで、楽しみながらたくさんの落ち葉を集めることができました! また、普段外遊びをあまりしない子どもたちにとっても、落ち葉や土に触れる良い機会となりました。

(参考) 竹を使って落ち葉を入れる囲いを作ることができます！

材料 竹 直径5センチ程の細い竹（杭用） 無ければ直径10センチ程の竹を竹割器で6等分にして使う

道具類

ノコギリ



竹割用ナタ



竹割り器



六分割を使用

ゴムハンマー



シュロ縄



【有れば卓上丸鋸】

1. 杭と編み込む竹を作る

細い竹又は太い竹（直径10センチ程）を50センチ程の長さに切ります。太い竹は竹割用のナタや竹割器を使い6等分に割り土に刺す側を尖らせませす。（卓上丸鋸を使用）



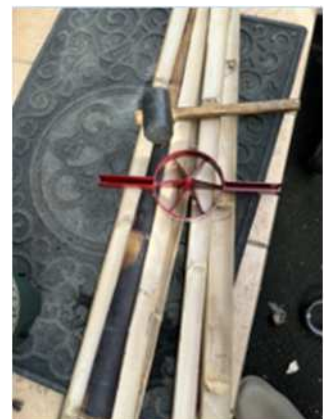
卓上丸鋸が有ると
便利です。



細目の竹を支柱に使う
と丈夫。



太い竹は竹割器で6
等分に割る。竹には上
下が有り、上から割る
と割りやすいです。



ゴムハンマーを利用
すると楽に割れ
ます。

2. 竹で杭を打つ

堆肥を作る場所を大まかに決め（円形や楕円形）地面にスコップで軽く掘り、印を付けておきます。
竹で作った杭を等間隔に40センチ程の間隔に木ヅチかゴムハンマーで奇数本打ち付けます。
この時、杭がぐらつかないよう10センチ以上しっかりと土に打ち付けます。

3. 長い竹でカゴ状に編んでいく

6等分に割っておいた長い竹（2メートル程）は 節の部分を曲げやすいように処理しておきます。
カゴを編むように、互い違いに竹を杭に挟み込んでいきます。外れにくいようにシュロ縄で縛っても良いです。
これを30センチ程の高さになるまで繰り返します。あまり深くしてしまうと、切り返し作業がし辛くなって
しまうので注意します。深くするより、表面積を大きくした方が、切り返し作業が楽です。

竹の囲いを使った堆肥づくりの記録



■R5.7

最初、竹が手に入らなかったの で 細い笹竹を利用しました。

夏場だったので、落ち葉の量も少なめでした。米ぬかを混ぜ、この日の作業は終了。



■R5.10

秋になり、竹を手に入れたので、編み込んで高さを出しました。

公園清掃の落ち葉を入れていきます。
(マテバシイの固い葉が多いので分解に時間がかかりました。)

この後、杭の上の部分は切り落としました。

本格的な落ち葉の季節 大量の落ち葉が運ばれました



■R5.12

冬になり、街路樹清掃の落ち葉（カエデ）が大量に運ばれました。溢れてしまうので、ネット袋に入れたままのせておきました。

環境に配慮しビニール袋をやめ何度も繰り返し使えるネットを使用。



ホースを持ち込み水をかけながら 踏みつけ作業を行い、量を減らすことが出来ました。



しばらくすると 落ち葉は分解し 黒ずんで量も減ってきます。米ぬか雑草、植物の残渣等も入っています。



落ち葉に菌糸が付き 温度が上がっています。カナブンの幼虫、ワラジムシ、ミミズ等の虫達も落ち葉を食べて分解しています。



腐葉土らしく 黒い土のようになりました。



完成した堆肥は土のう袋に保存し、花壇の土づくりに活用しています。



■R6.6 宮前郵便局 花壇

落ち葉堆肥を混ぜ込む事で 土がフカフカになり
植え付け時以外 水やりは一切していませんが乾燥
から植物を守ってくれます。

メンバーが育てた朝顔の苗を植えました。



川崎市公園緑地協会から頂いたジニアの種を蒔
いたところ、次々と花を咲かせました。